

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校

校長
酢谷昌義



運動会「フォークダンス」練習

「感動」を呼ぶ頑張り！

サッカー・アジアカップは、日本が優勝という最高の結果で終わりました。カタールにいる日本人はもちろん、日本国内でも大いに盛り上がった1か月だったのではないかと思います。

この大会における日本チームの頑張りは、私達に「勇気」と「感動」を与えてくれたように思います。それは、先週触れたように「あきらめない」という精神的な強さと「全力を尽くすことの大切さ」を、メンバー全員が示してくれたからだと感じています。

特徴的なことは、監督・スタッフが一丸となった上に、途中出場の選手がいずれも期

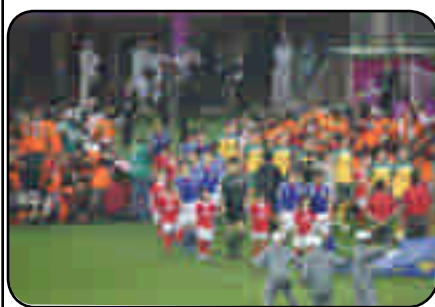
待に応え活躍している点です。昨日もそうでしたが、途中出場で結果を残すということは、なかなかできるものではありません。たとえベンチにいても、いつでも出場できるように準備をし、気持ちの上ではピッチの選手と一緒に戦っていたからこそだと思います。

またベンチの誰を使うのかという監督の采配も、大変素晴らしいものでした。それは決して偶然の結果ではなく、監督が日頃から選手を非常によく観察していたからということです。それは選手も口々に言っています。

このことは、私達に非常に重要なことを教えてくれてい

ます。私は先輩から「子どもから目を離すな」と、くり返し指導されてきました。それは子どもを理解する上で当然のことですが、集団での指導が主となる学校では、なかなか難しいことでもあります。サッカーの応援を通し1人1人の子どもを活かし伸ばす上で、子どもから目を離さないことの大切さを改めて感じました。

今朝は全校集会の日でした。サッカーの話題から全力を尽くすことの大切さについて話しました。近づく運動会に向けて、勝敗に関係なく全力で取り組む姿が、見ている人に感動を与えることを忘れずに頑張ってもらいたいと思います。



2011・サッカー・アジアカップ

日本「優勝」おめでとう！



校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

いよいよ予行練習が始まります

みんなの元気を集めて

今日は運動会の会場：アルライヤンパークで予行練習を行いました。本番の会場で予行練習ができるのは、子ども達にとっても大変心強いのではないかと思います。

今までは、ほとんど校舎内の限られたスペースでの練習ばかりでした。広いグラウンドで、どのように動けば良いのかを体験することは、自分の行動を自分で考えて行うためには欠かせません。日本であれば、何度も何度もくり返し行うことができるのですが、ここではそうもいきません。唯一の機会とも言える予行練習ですから、本当に貴重な時間だったと思います。

予行練習ですから、入場行進からプログラムの順番に従って行いました。「行進」の練習は、日本の学校でも大変時間がかかるようになってきました。足並みをそろえたり、前後左右の列をそろえたりと

いうことがなかなかできないのです。集団行動の訓練そのものが、何か良くないことをさせているように思われていた時期がありました。その頃から、周囲の動きに合わせることも、自分中心に動くようにするようになっていったように私には感じられました。少人数であっても、2列縦隊できちんと行進できるようになってほしいと思いますが、なかなか十分な練習ができないのも事実です。当日は入場の時から、みんなが元気良く行進してくれたらよいと思います。

その後、ラジオ体操に始ま



ラジオ体操は良くなりました

り種目練習を行いました。みんな一生懸命取り組んでいました。本番での結果が全く予想ができないほど白熱したものが多く、とても楽しみになってきました。

今回は用具係りなども子ども達が行うので、そのための練習でもありました。下学年の世話や、任せられた仕事を一生懸命こなしている姿は、見ているだけでも大変気持ちが良いものでした。

練習が終わった後で子ども達に話したことは「もっと元気を出していこう！」ということです。声の大きさや身体の動き、そういういろいろな面で子ども達1人1人が持っている元気を出すことができれば、きっと素晴らしい運動会になると思います。本番に強い子ども達です。みんなの力で、今まで以上に思い出に残るものにしてけると期待しています。



みんなで堂々と入場行進の練習をしています



「よさこいソーラン」最後の決めポーズ

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校

校長
酢谷昌義



毎回サッカーで盛り上がります

思い切り遊ぶ気持ち良さ

子ども達の良さは、何と言っても「元気」だということを感じました。どうということかと言うと、昨日の午前中は運動会の予行練習を行いました。昼休みになるとその疲れも見せずみんなが思い切り走り回って遊んでいるのです。しかも3年生以上は校舎裏の芝生のスペースを使って、鬼ごっこに夢中になっていました。今週の日曜日に、ちょうど芝生をきれいに刈ってもらったので、気持ちよく走り回ることができました。1・2年生はというと、校舎内の運動スペースでサッカーをし、みんなが一生懸命ボールを追いかけていました。昼休みに子ども達が遊んでいる姿を見て、私はいつも以上に「子どもらしくて気持ちが良いなあ」と思いました。

夢中で遊べるということは、子ども達にとっては当然のことのようですが、とても大切なことだと思います。

最近では仲間と群れて遊ぶことができなかったり、そういう遊びを避けたりする子どもが増えて来ているように感じます。これはとても問題なことです。子ども達は、遊びを通して学ぶことが非常にたくさんあるからです。このことは今までに何度も触れてき

ましたが、遊びの中からルール・自己主張・思いやり・立場の自覚などなど、本当に多くのことを「遊び」という体験を通して学ぶのです。

ドーハ日本人学校の子ども達は、良い意味でみんな子どもらしさを発揮しています。それは素直であるということとも関係しているように思います。少しぐらいの疲れを気にせず、思い切り遊ぶ子どもであってほしいと思います。

一月の詩

○小学部低学年

「たきび」

異聖歌 (たつみせいか)

かきねの かきねの まがりかど
たきびだ たきびだ おちばたき
「あたらうか」「あたらうよ」
またかぜびいふう ふいている

さざんか さざんか さいたまち
たきびだ たきびだ おちばたき
「あたらうか」「あたらうよ」
しもやけ おててが もうかゆい

こがらし こがらし さむいみち
たきびだ たきびだ おちばたき
「あたらうか」「あたらうよ」
そうだん しながら あるいてく

○小学部中学年

「けむり」

まど・みちお

おちばを たくと
木の おもいでが
けむりに なって おきだしてくる
空を たずねていつて
こずえを つくろうと
えだを ひろげる
えだを ひろげる
小鳥たちが
すぎだったように するために
あれこれ 考えまどいながら
それは もう
いろいろに…



芝生の上を走り回る子ども達



校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校

校長
酢谷昌義



芝をきれいに刈ってもらいました

しっかり体調を整えて!

間近に運動会が迫ってきましたが、体調を崩している子どもが多いのがとても心配です。本番に向けて今まで一生懸命練習をしてきたので、やはり全員が元気な姿で揃って、有意義な運動会を行うことができるのが何よりです。

行事の時には、特に子ども達の健康状態が気になります。もちろん普段から気にかけて

はいるのですが、行事に参加できないのは、学校にとってもその子どもにとっても大変寂しく残念なことです。子ども達は本番を経験することで、練習の時以上にいろいろなことを身につけていくことができます。何よりも練習の時とは自分自身の意識が明らかに違います。それまで思うようにできなかったことが、本番

ではできたということが、子ども達の中では良くあることです。そういう経験を通して、自信を身につけていくことにもつながるのです。

体調のすぐれない子も今は元気な子も、自分で自分の身体を気遣うことをしてほしいと思います。そしてみんなが元気で運動会にのぞめることを願っています。

二月の詩

○小学部高学年

「こんこんこな雪ふる朝に」

三好達治

こんこんこな雪ふる朝に
梅が一りんさきました
また水仙もさきました
海にむかつてさきました
海はどどん冬のこえ
空より青い沖のいろ
沖にうかんだはなれ島
島では梅がさきました
また水仙がさきました
赤いつばきもさきました
三つの花は三つのいろ
三つの顔でさきました
一つ小島にさきました
一つ畑にさきました
れんれんれんげはまだおきぬ
たんたんたんぼねむってる
島いちばんにさきました
ひよどり小鳥のよぶこえに
こんこんこな雪ふる朝に
島いちばんにさきました

○中学部

「冬が来た」

高村光太郎

きつぱりと冬が来た
八つ手の白い花も消え
公孫樹(いちよう)の木も箒(ほうき)になった
きりきりと揉み込むような冬が来た
人にいやがられる冬
草木に背かれ、
虫類(むしるい)に逃げられる冬が来た
冬よ
僕に來い、僕に來い
僕は冬の力、冬は僕の餌食(えじき)だ
しみ透れ、つきぬけ
火事を出せ、雪で埋めろ
刃物のような冬が来た



戸外の芝生で楽しむ子ども達



二月の
生活安全目標
みんな
気をつけよう!